

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

| |
|-------------------------|
| 特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター |
|-------------------------|

②施設・事業所情報

| | |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 名称：横浜みなみ薫保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：園長 荒木 明美 | 定員（利用人数）： 72 名 |
| 所在地：〒232-0013 横浜市南区山王町4-25 | |
| TEL：045-334-7001 | ホームページ：kaorugakuen.com |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日： 2012年（平成24年）5月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）： 株式会社 薫学園 | |
| 職員数 | 常勤職員： 17 名 非常勤職員 14 名 |
| 専門職員 | 保育士 21 名 栄養士 2 名 |
| | 調理員 2 名 保育補助 2 名 |
| | 用務 1 名 |
| 施設・設備 の概要 | （居室数） |
| | （設備等） |
| | 保育室 3 室 調理室、事務室、3階ホール、多目的室、エレベーター、駐輪場 |

③理念・基本方針

保育理念

- 1.子どもの人権や主体性を尊重し、最善の利益を守り、その福祉を積極的に進めます。
- 2.地域社会との連携を図り、すべての子育て家庭の支援を行います。
- 3.人の人生の基礎となる、ゆるぎない健全な人格の土台を築きます。

保育方針

安心(SAFETY) 安全(SEcurity) 安定(SANCTUARY)

保育目標

たのしくあそび たのしくまなぶ

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・体験を通して感じることを大切にしている。（野菜の苗植え、収穫、収穫したものを使ってのクッキング、みかん狩り、雨の日の散歩、電車に乗ってのおでかけ、体験を主体とした遠足）
- ・自然と生活習慣が身につく工夫（身の回りの荷物の始末、箸や歯磨き、トイレトレーニング等の開始時期は一人ひとりに合わせて行っている）
- ・大きな計画の枠組みはあるが、その実施については日々の天候や子ども達の状態を重視して行っている。
- ・どんなことでも指導という形ではなく、子どもの興味や関心を引き出すことを目的に行っている。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2021年7月13日（契約日）～ 2022年3月10日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 2 回（2016年度） |

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆保育士に優しく受け止めてもらい、子どもたちは素直に自分らしさを発揮しています

園は、子どもが自分で「やってみたい」「学びたい」などの生きる意欲を持ち、自分が大切な存在であると自己肯定感を感じられるように支援しています。

保育士は、子どもの仕草、表情、つぶやきなどから子どもの思いを汲み取って受け止め、言葉にして確かめ、子どもが自分の思いを素直に表出できるように支援しています。外国籍など、言葉で自分の気持ちを表現することが苦手な子どもが多くいますが、絵カードやジェスチャー、歌などその子に合わせた方法を用いて伝え、子どもが理解し、自分から活動に取り組めるように支援しています。

子どもが「やってみたい」という気持ちを示した時には、時間がかかっても見守り、子どもができたことを一緒に喜んでいきます。このような経験を重ねることで、子どもたちの意欲が育っていて、少しずつ自分のことは自分でできるように育っています。

また、子どもの発想や発見を保育に反映するようにして、子どもの声を聞いて散歩の行き先を決めるなどしています。お店屋さんごっこの出し物を話し合っ決めて、アイデアを出し合っ工夫して商品を作るなどして、友だちと協力してやる楽しさや思いやりの気持ち等を得ています。

保育士に優しく認めてもらい、子どもたちは素直に自分を表出し、園生活を楽しんでいきます。

◆保育士は、子どもへの思いを共有し、連携して保育をしています

職員会議等で目指す方向性について共有するとともに、子ども一人ひとりの状況について話し合っています。開園当初から働き続ける保育士も多く、保育についての話し合いを重ねる中で、風通しの良い職場環境が作られています。日々の保育でも、こまめに子どもの状況について情報交換し、声を掛け合っ保育をしていて、訪問調査時にも、子どもの状況を見て保育士同士が声をかけあっクラスを超えてサポートに入ったり、さりげなく交替して一対一で対応するなど、連携している場면을複数確認することができました。保育士間で、さりげなくお礼やいたわりの言葉をかける場面もあり、コミュニケーションの良さを読み取ることができました。このような雰囲気は子どもたちにも伝わっていて、落ち着いた家庭的な雰囲気が作られています。

◆保護者が安心して子育てができるよう、支援しています

保護者が園の取り組みを理解し、安心して子育てができるよう保護者支援に力を入れています。0・1歳児は毎日、2～5歳児は必要に応じて、連絡ノートを用いて保護者と情報交換しています。朝夕の送迎時には、子どもの様子をエピソードを交えて伝え、保護者とコミュニケーションを取り、相談にのっています。必要に応じて、個別面談を設定し、内容によっては園長・主任が対応しています。保護者に寄り添っ子育ての悩みを聞き、一緒に考えたり、アドバイスをしたりしています。保護者の価値観や生活習慣も尊重しながらも、子育てに必要な情報を伝えたり、土曜保育や延長保育に柔軟に対応するなど、個々に応じた支援をすることで、保護者が安心して子育てができるように支援しています。

◇改善を求められる点

◆文書化への取組を進めていくことが期待されます

園では、保育の現場からあがった課題を職員会議等で取り上げて、皆で検討し、改善に向けて取り組んでいます。ただし、それらを改善計画等で文書化するなどの取組はしていません。マニュアルについても、安全面や防災面についてのマニュアルは作成していますが、内容によっては作成されていないものや行政のガイドライン等をそのまま援用し園の実情と照らし合わせていないものが見られます。開園時からの職員が多い事もあり安定した保育が実践されていますが、新人職員の入職などに備え、園が培ってきたノウハウを文書化していくことが期待されます。

◆長期計画に基づく事業計画を策定し、職員と共有していくことが期待されます

理事長、園長、主任は経営上の課題や園の強みを認識し、園の進むべき方向性について議論を重ねていますが、結果を事業計画として文書化することはしていません。園の理念や方針の実現に向けた将来のビジョンを明確にするとともに、その実現に向けた人材育成や施設整備などについての取り組みを文書化した中長期計画およびそれを基にした事業計画を策定し、職員と共有していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、5年ぶりに第三者評価を受審致しました。当園は開園10年目となります。ちょうど節目のこの年に、職員みんなで保育園の在り方を振り返る機会が持てたことは大変意味のあることでした。振り返りながら改善の具体案が出たり、日々何気なく行っていることの重要性に気付いたり、また、改めていろいろな方々のご協力の下、園運営が出来ていることがわかり感謝の気持ちでいっぱいになりました。

さて、開園10年となるといろいろと変わってくるがありますが、変わらないこともたくさんあります。当園の社訓『こどもは宝、わたしたちの宝、みんなの宝』、この気持ちでみんなで創り上げていく保育園というところは今までもこれからも変わりません。子ども達がいて、保護者の方々がいて、職員がいて、地域の見守ってくれている方々がいて、園が存在します。誰が欠けても成り立ちませんので、お互いに感謝の気持ちを持ち、良い意味で進化していく保育園であり続けたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり